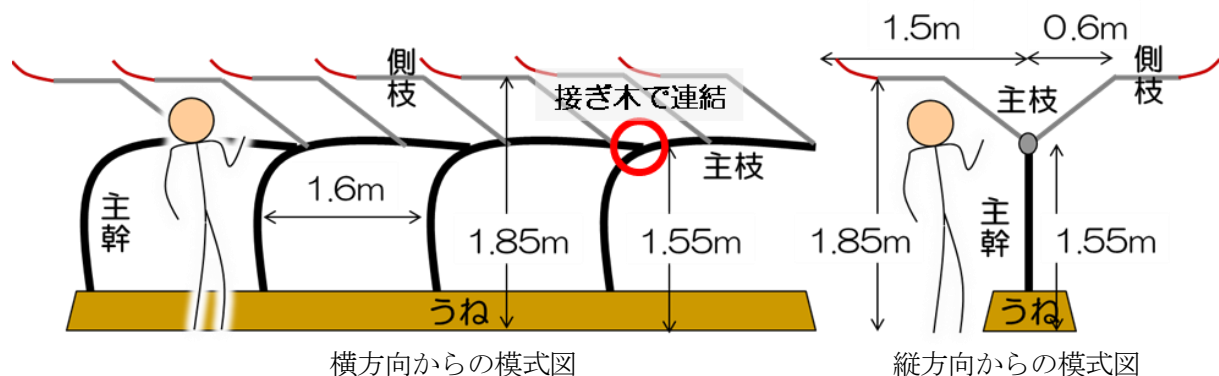


モモの樹体ジョイント仕立ての栽培管理マニュアル

モモの栽培には、熟練した経験に裏づけられた整枝・せん定等の精密な管理技術が必要です。そのため、技術の継承が進まず、栽培面積は減少傾向にあります。そこで、神奈川県が開発したナシの樹体ジョイント仕立てを応用し、後継者、新規の生産者や雇用者でも、従来の仕立て法と比較し単純かつ省力的に高品質果実を生産できるモモの樹体ジョイント仕立てを開発しマニュアル化しました。

☆ 技術の概要

1. 育苗は、培養土に赤玉土を利用し、100cm で切返しを行い、ジベレリンペーストを2回処理し、副梢を2葉で摘心することで、本仕立て法に適した苗木が育成できます。
2. 樹形は、主枝高 155cm、植栽間隔は樹間 1.6m、列間 3m を基本とします(図)。その場合、定植 3 年目での成園化が見込め、従来の仕立て法と比較して早期の成園化が可能になります。
3. 自然な立ち姿勢で管理作業が行えるため、従来の仕立て法と比較して心拍数増加率が低くなる傾向があり、また一部の管理作業時間が短くなり、軽労化と省力化ができます。
4. 「モモの樹体ジョイント仕立ての栽培管理マニュアル」は、広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部において配布しています。



横方向からの模式図

縦方向からの模式図

図. モモの樹体ジョイント仕立ての基本樹形

☆ 活用面での留意点

1. 棚は、T字連結型の棚とすることで、従来の一文字形整枝の棚と比較し、資材費が 20%程度削減でき、設置作業時間も短くなります。
2. 技術の概要は、平成 28 年度 広島県立総合技術研究所農業技術センター 研究成果情報 (<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/210571.pdf>) として確認することができます。
3. 詳細については、広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部 (電話: 0846-45-5471、HP: <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>) にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田雅人)